

令和5年9月

9月になりました。2学期も授業・学校行事・部活動等を通して、高い学力を養うとともに、自分の成長を将来にわたって支える人間力を高めていきましょう。

○ 嫌いな人がいたってかまわない

1学期の始まりにリスペクト・アザースの話をしました。日本でリスペクト・アザースが浸透していけば、もっと素晴らしい社会になるという少年の作文を紹介しました。今SNSにあふれている「互いをののしり傷つけあう」ヘイトではなく、「互いに尊重しあう」社会にしようということです。仮に嫌いな人がいたっていい。誰とでも意見が合うわけではない。それでも争うのはやめよう。尊重し合おう、認め合おう、共存しようということです。

トラブルのない社会はユートピア（どこにもない場所の意味）です。なぜなら、人間は一人ひとりみな自由であり、それぞれ意見が異なり、そのために意見が衝突することは当然あるからです。仮に言論の自由のない絶対主義国家やファシズム国家だったら、表面上トラブルはないかもしれませんが。独裁者の言うことに誰も反論できないからです。しかし、一人ひとりが尊重される民主主義社会なら、それぞれの意見が異なることは大前提です。そこで、相手を尊重し、自分を尊重し、意見の違いや対立を乗り越えて、話し合い、合意形成する力が求められるのです。

その民主主義社会では、一人ひとりが自律する存在であることが求められます。自律しない民衆が多いと、民主主義社会はすぐさま衆愚政治（墮落した民主政治）や少数意見を抹殺する社会に陥ってしまいます。これは民主主義の欠点です。

○ 自律 ～自分の物語は自分で紡ぐ～

自律とは、自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動することです。

民主主義社会においては、他者のこと、全体のことともわきまえて、自分がやりたいことやなすべきことを自分ですることが大事です。自分がなすべきことを、だれか偉い人に決められたり、多数決で決められたりしてはいけません。自分で立ち向かい、自分で選び取り、自分でその代償を支払うのです。

生まれながらにして、自律している人はいません。若いみなさんは、時に傷つきながら試行錯誤を繰り返すことで自律していくのです。だから、「青春はなにもかもが実験である」（スチーブンスン）と言われるのでしょう。

ただ、自律の反対は依存と思い込み、他者に依存せずに、なんでも自分一人でなんとかしなければならないということではありません。適切に他者に依存したり、自らが必要な支援を求めたりしながら、社会の中で自分らしく生きることが大事だと思います。※

※ 脳性まひの障害をもつ熊谷晋一郎氏（山口県生まれ。小児科医／東京大学特任講師）は「自立とは依存先を増やすこと」と述べている。

○ いま本当に身につけてほしい力

自分らしく自分が生きたいように生きる、言い換えると自由に生きるためには「力」が必要です。どれだけ日本国憲法が全ての人は自由だと言ったところで、自由に生きるためには「力」がいります。たとえば読み書きそろばんやリテラシーの力、コミュニケーション力、心身の健康管理などです。だから皆さんは本校で学んでいるのです。自分のなりたい自分になれるよう「力」をつけて、自分が生きたいように幸せを感じて生きる。それはあなた個人のためでもあるし、社会のためでもあるのです。

2 学期からも、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念のもと、自分を尊重し、他の人も尊重し、互いの夢を実現する努力をして、みんなで成長することで、明日を切り開いていく。そういう学校にしていきたいと思います。

<SDGsの達成に向けて ～誰ひとり取り残さない社会をつくる～>

近代民主主義社会では、人は生まれながらに一人ひとり大切であって、人はみな同じ価値をもつことが前提になっています。成績が良かろうが悪かろうが、障害があろうがなかろうが、経済的に貧しい国や家庭に生まれても、外国人であっても、自分は価値のある存在であるということです。同時に自分以外の人も自分と同じように大切な存在であるということです。

私たちは、自分の〈自由〉のために、相手の〈自由〉を侵害したり排除したりと悲惨なことに陥りがちです。しかし、自分が〈自由〉になるためには、相手が〈自由〉な存在であることをまずいったん認め合うことが必要です。これが〈自由〉になるための根本的な考え方です。このことを理解し、その感度を身に付けることが学校教育の目的の一つだと思っています。

ところが、子どもたちを取り巻く環境には、いじめ、児童虐待、DV、体罰などの暴力の問題があります。ネット上にも、他者を攻撃する無責任な「勇ましい」言葉があふれており、他者に対して不寛容な社会になっているような気がします。実際に、国連の世界幸福度ランキングで日本は先進諸国の中で最下位（54位）であり、「他者への寛容さ」の数値が際立って低いのです。

非暴力不服従運動を指導したインドのガンディーは「『目には目を』では世界中を盲目にするだけだ。」と言いました。やられたらやりかえす社会ではなく、自分も尊重し、他者も尊重する社会こそ持続可能な社会だと思います。

皆さんはどう思いますか。

○ 校庭紹介（9月）



糸杉。イトスギは赤十字のシンボルツリーです。いつかは知りませんが、JRC部によって植えられたのですね。



剪定された藤棚がきれいです。来年の花咲く時期が今から楽しみです。